

1. 発見日時	令和7年(2025年)7月18日(金)8:00, 7月22日(火)7:30	
2. 発生海域名	釧路市 釧路港	
3. 発生状況 (規模、形状等)	釧路港の西側から東側まで(直線距離約1.4km)の一帯の海面が呈色。 水色:33(くらいき)	
4. 優占種	7/18 <i>Heterosigma akashiwo</i> (ヘテロシグマ・アカシオ) 5,070 細胞/mL <i>Skeletonema</i> spp. (スケレトネマ属) 2,970 細胞/mL <i>Chaetoceros</i> spp. (キートセロス属) 680 細胞/mL	7/22 <i>Heterosigma akashiwo</i> (ヘテロシグマ・アカシオ) 3,620 細胞/mL (7/22) <i>Skeletonema</i> spp. (スケレトネマ属) 3,310 細胞/mL (7/22) <i>Chaetoceros</i> spp. (キートセロス属) 420 細胞/mL (7/22)
5. その他	<p>発見・採取者: 釧路水産試験場職員、同定者: 釧路水産試験場職員</p> <p>【マリントポス前、表面】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水温: 19.1°C、塩分: 28.2、クロロフィルa濃度: 137 μg/L (7/18)</li> <li>・水温: 21.1°C、塩分: 18.5、クロロフィルa濃度: 76 μg/L (7/22)</li> </ul> <p>今回の着色は <i>Heterosigma akashiwo</i> と珪藻類の混合赤潮である。<i>Heterosigma akashiwo</i> は魚介類のへい死を直接引き起こす有害な赤潮プランクトンであり、数万細胞/mLを超えると養殖魚類などのへい死を引き起こす場合がある。今後高密度化した場合には赤潮発生海域での魚介類の蓄養や活魚用海水の採水等に注意が必要である。着色はマリントポス前が最も濃く、東側ほど薄い。また赤潮解消後には死骸の分解により溶存酸素濃度が低下する可能性があるため、閉鎖性の強い海域では注意が必要である。</p> <p>(参考) 市漁協サーモン養殖イケス採水資料(7/22): ヘテロシグマ・アカシオ 260 細胞/mL、スケレトネマ属 660 細胞/mL、クロロフィルa濃度 8.2 μg/L。</p>	
6. 参考図	<p>図1 赤潮発生場所の位置</p> <p>地理院地図（国土地理院）<a href="https://maps.gsi.go.jp/">https://maps.gsi.go.jp/</a>を基に道作成</p> <p>図2 海面の状況</p> <p>図3 <i>Heterosigma akashiwo</i> と <i>Skeletonema</i> spp.</p>	